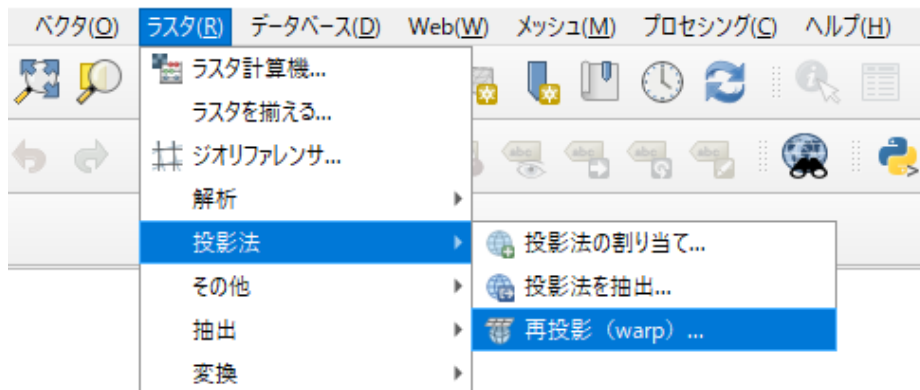


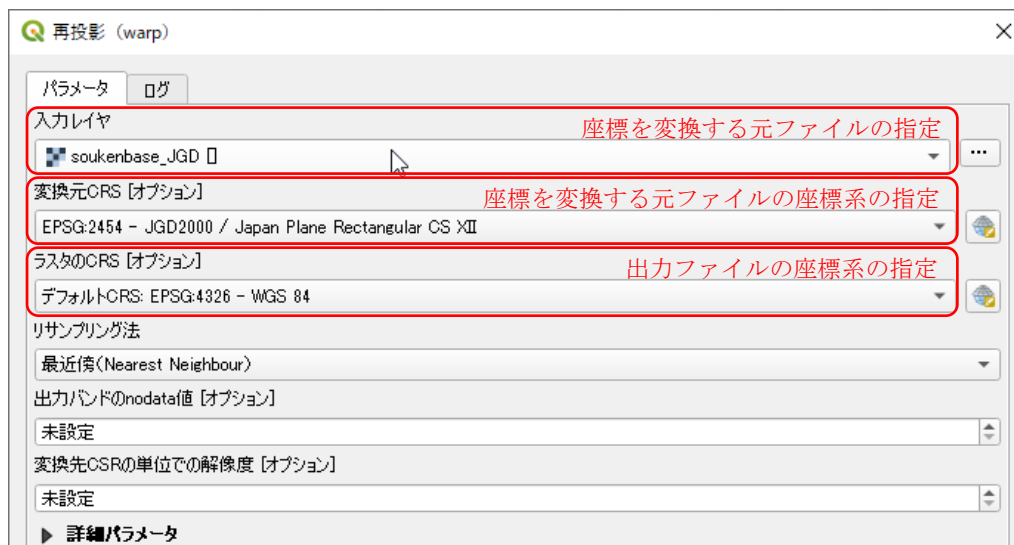
ラスタの座標参照系変換

変換するラスタデータの保存されているフォルダ、ファイル名はすべて半角英数文字でなければならない。日本語があるとエラーになるので注意。

- ① 上部メニューより「ラスタ」→「投影法」→「再投影 (warp)」を選択。



- ② 「入力レイヤ」に変換元ファイル（今回は「soukenbase_JGD.tif」）を指定
③ 「変換元 CRS (オプション)」に入力ファイルの座標系を指定します。（今回は平面直角座標系 JGD2000_8 系・EPSG : 2450）。
④ 「ラスタの CRS (オプション)」に出力するファイルの座標系（今回は地理座標系 WGS84・EPSG : 4326）

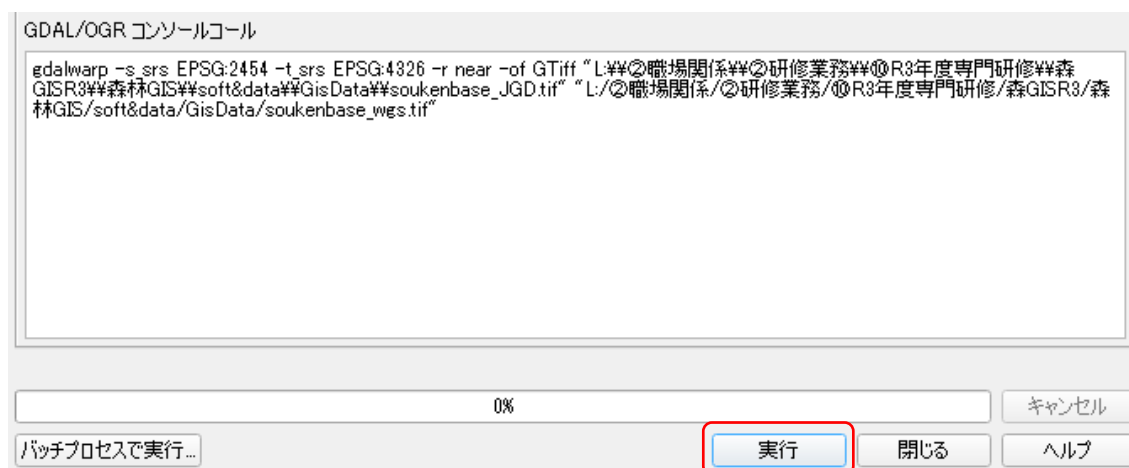


- ⑤ボックス下部「再投影したラスタファイル」右端の「…」のスイッチを押し、「ファイルを保存」をクリックすると、「ファイルを保存」ボックスが開くので「保存先、ファイル名、ファイルの種類」を指定し保存設定を行います。

ファイル名は内容、座標系が分かりやすい名前にするとその後の取り扱いがしやすくなりますので、雑に指定せず目的をもって指定してください。



- ⑦「実行」ボタンを1回クリックすると変換開始、インジケータバーが反応します。エラーが即座に出る場合は設定が間違っています。主に座標参照系の設定、指定ファイルのスペルミスなどが多く見られます。



⑧あせらない（重要！）

変換には少し時間がかかります。また、変換終了後「ログ」画面に切り替わりますので、「閉じる」を押して変換終了です。

「パラメータ」画面に切り替えた場合、ここで「閉じる」ではなく「実行」を選択すると同じ処理が始まります。途中で画面を閉じるとファイルの破損など発生するので、そのまま処理が終わるまで待ち、「閉じる」で変換作業絵御終了してください。